

120人が安全対策など学ぶ 日合協東北連合会 仙台で技術講習会

日本アスファルト合材協会（日合協）東北連合会（野口典秀会長）は2025年度技術講習会を1月30日に仙台市青葉区のハーネル仙台で開いた。写真。会員企業などから約120人が参加。アスファルト合材の製造と品質管理、プラントの安全対策や最新の施工技術などを学んだ。

冒頭、橋浩一常務理事が「東北地方の合材製造数量は第3四半期までで前年同期比92・5%と厳しい状況が続いている」と窮状を訴えた。「業界は高品質な合材を供給し、社会資本の整備、維持管理、更新に不可欠な役割を担っている。さ



らなる技術の研さんと安全衛生、環境問題に真摯（しんし）に取り組んでほしい」と呼び掛けた。

講習会では、同連合会技術委員の赤間俊浩氏（ガイアート福島ふたばアスコン工場長）が25年度安全衛生環境パトロールの結果を報

告。ENEOS産業エネルギー部の井上和也氏が「舗装用アスファルトの供給体制と運送課題」、高速道路総合技術研究所の熊田一彦舗装研究担当部長らが「高弾性上層路盤用混合物の現在と今後の展開、サイロ貯蔵」の演題で講習。技術部会員の佐川聡氏（東亜道路工業技術部技術研究所主任研究員）は中温化アスファルトを活用した中温化混合物の製造・施工に関する調査研究や、社会構造の変化に対応したアスファルト混合物再生利用技術の共同研究について講話した。

1月29日には岩手県会場のマリオス（盛岡市）でも技術講習会を開催し、80人が受講した。

